

「実践・放射線技師による消化管読影レポートの書き方」

日本消化管画像研究会 会長 小川利政

平成19年6月10日(日)13:00-15:00

第3会場 アートホール

第22回学術大会(米子)の研修会では、胃集団検診、上部消化管造影施設検診、上部消化管造影精密検査、注腸X線検査の4項目について、読影レポートを実際に記載している施設、これから始めようとしている施設の方々に、放射線技師による読影レポート記載の現状として、各施設での記載例を交えての記載方法や放射線技師による読影レポートのメリット、デメリット、記載の検証、新人教育、問題点などについて報告して頂きました。しかし、読影レポートを書き始めたばかりの方やこれから始めようとする方などから、「実際にはどの様に書いたら良いのか」、「所見をどう表現すれば良いのか」などの声も聞かれ、今回の研修会では、「実践・放射線技師による消化管読影レポートの書き方」を企画しました。

内容としては、会員の施設で経験された臨床例を使用して、参加された方に、シェーマと以下のチェック項目ごとに、所見を記載していただきます。次に、症例を提供していただいた施設より、症例の解説をしていただき、所見を照合・検討します。

チェック項目(詳細な画像所見の記載)

隆起性病変

- 1) 占居部位
- 2) 隆起の形
- 3) 隆起の大きさ
- 4) 隆起の立ち上がり
- 5) 隆起の高さ
- 6) 隆起の辺縁の性状
- 7) 隆起の表面の性状
- 8) 病変の硬さ

陥凹性病変

- 1) 占居部位
- 2) 陥凹の形
- 3) 陥凹の大きさ
- 4) 陥凹の深さ
- 5) 陥凹の周辺の性状
- 6) 陥凹辺縁の性状
- 7) 陥凹内面の性状
- 8) 病変の硬さ

症例提供者 大阪府 淀川キリスト教病院 吉本 勝
千葉県 水戸医療センター 山野 一義

研修会には日本消化管画像研究会の会員でない方も参加できます。読影レポートを記載されている施設、これから始めようとしている施設、消化管造影検査に興味のある方々の参加をお待ちしています。